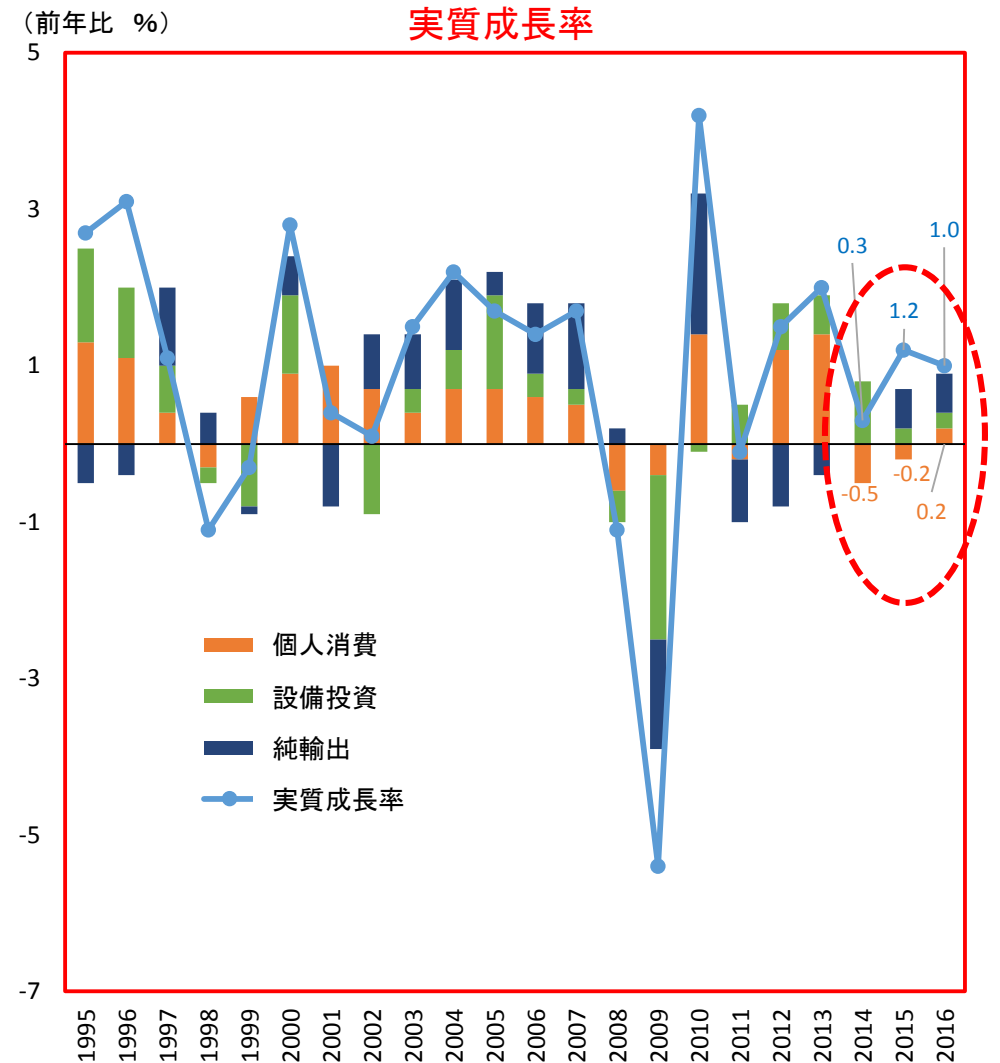
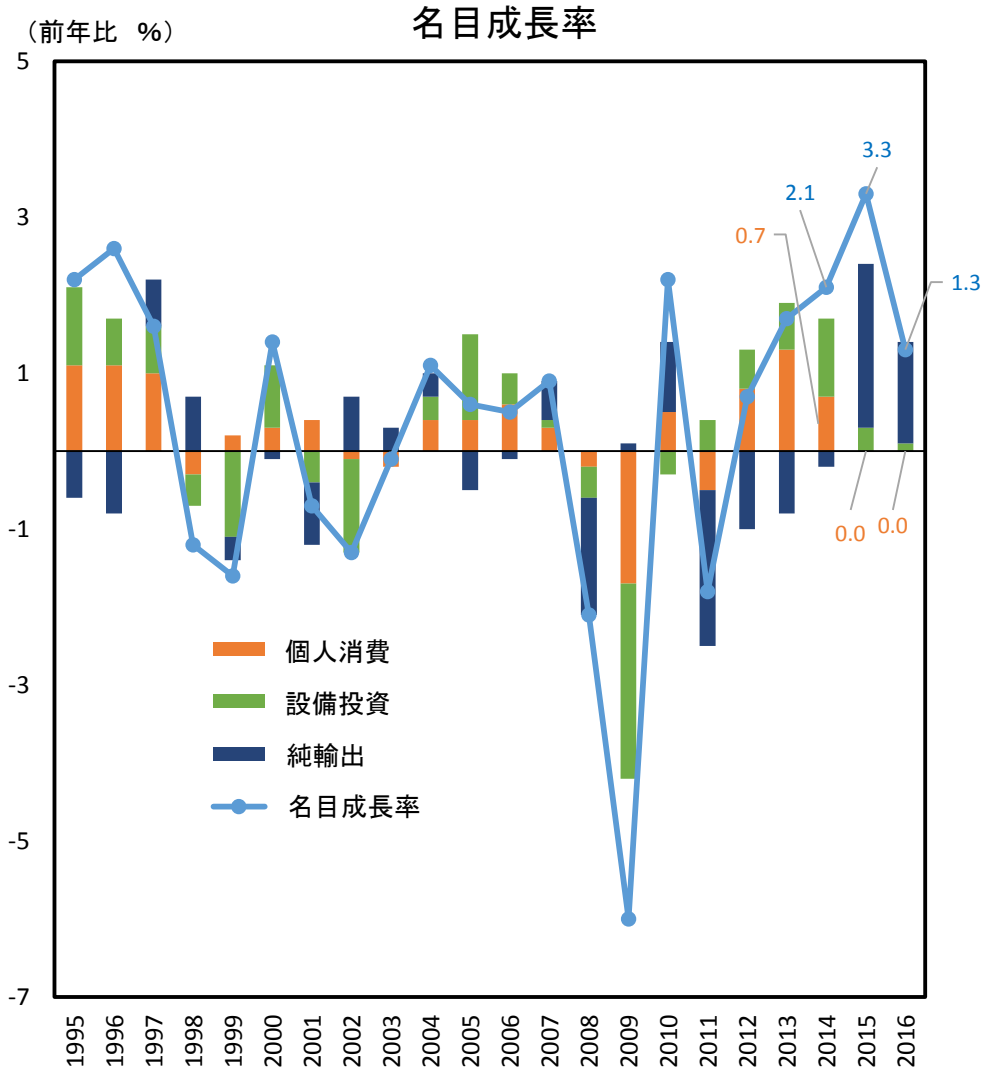


# 消費動向参考資料

平成29年4月12日  
内閣府

# 消費のGDP成長率への寄与度の推移

○実質でみると、個人消費のGDP成長率への寄与度は、2014、2015年はマイナスであるが、2016年は0.2%と若干のプラス。

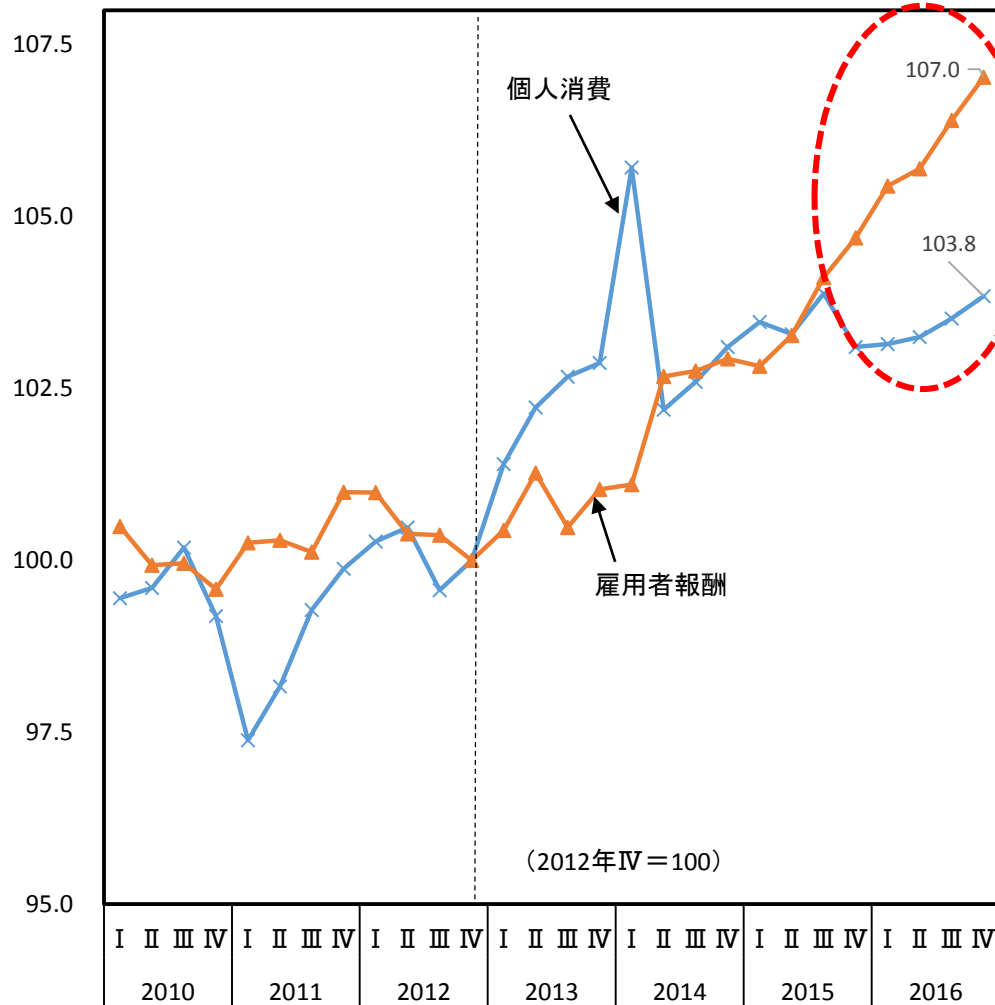


(備考) 内閣府「国民経済計算」により作成。

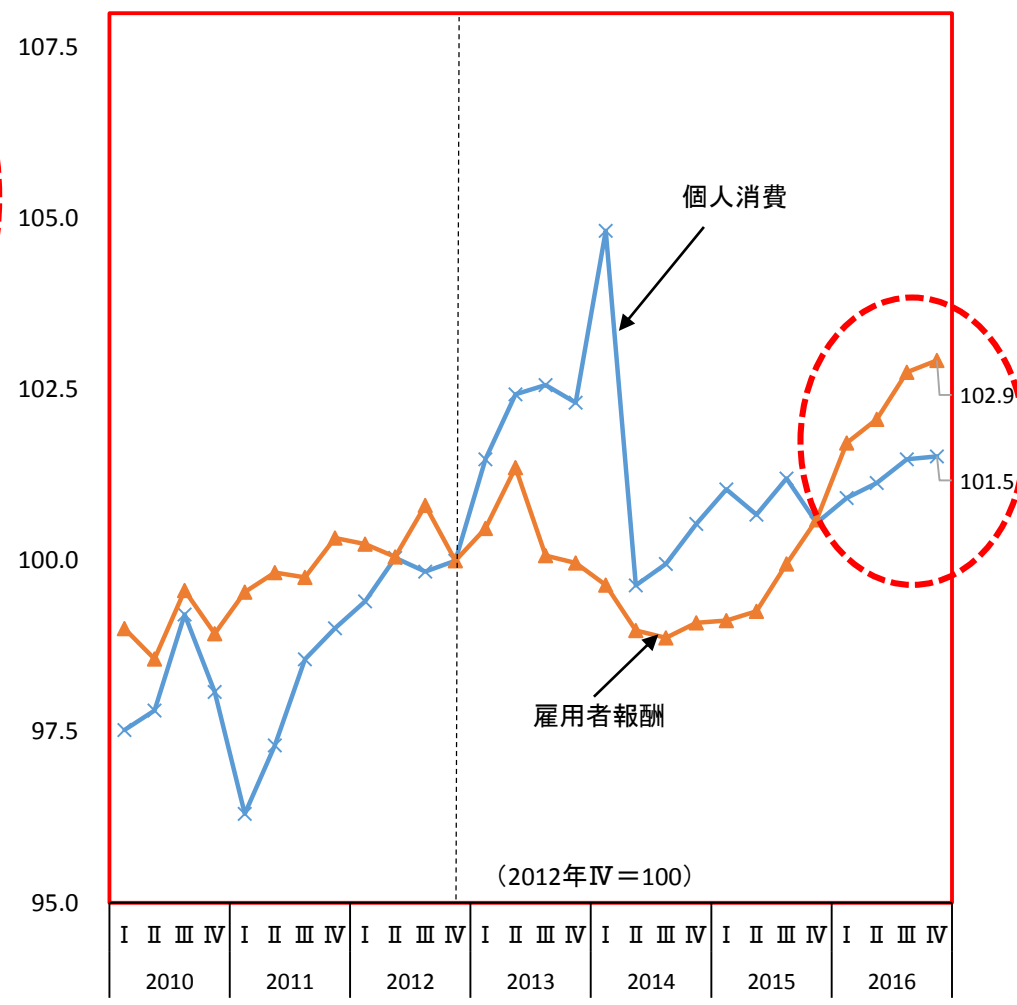
# 雇用者報酬に比した消費の動向

○個人消費は伸びているが、雇用者報酬の増加に比すと伸びは緩やか。

名目



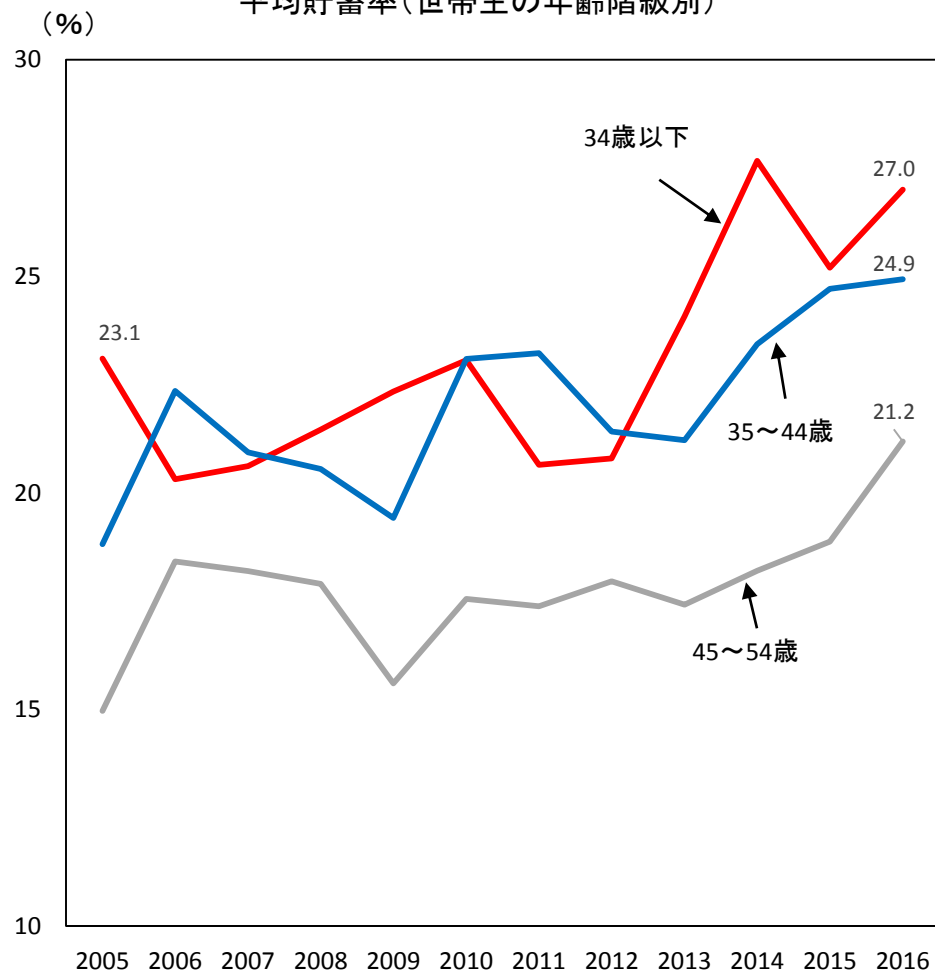
実質



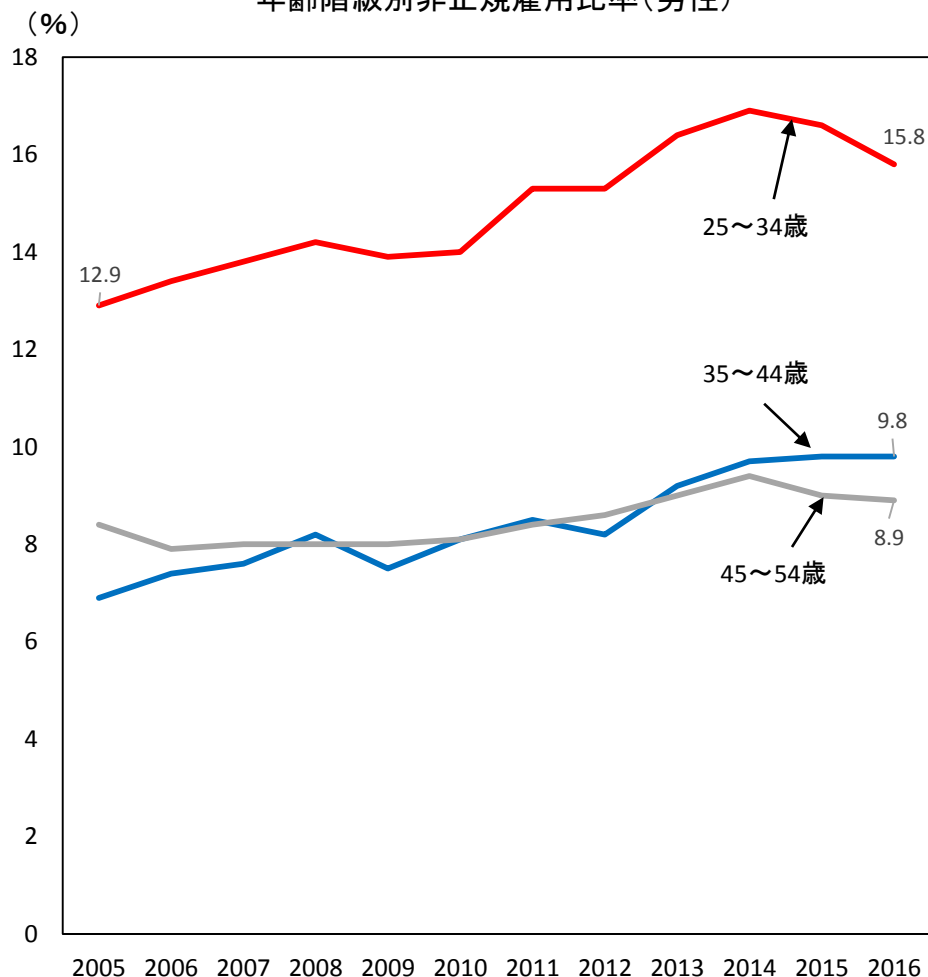
# 若年世代の貯蓄率の上昇

○消費の伸びが緩やかな原因として、家計の貯蓄率は特に34歳以下の世帯で上昇。この背景として、同世代の男性の非正規比率が高まっていることが原因の一つとの見解がある。

平均貯蓄率(世帯主の年齢階級別)



年齢階級別非正規雇用比率(男性)



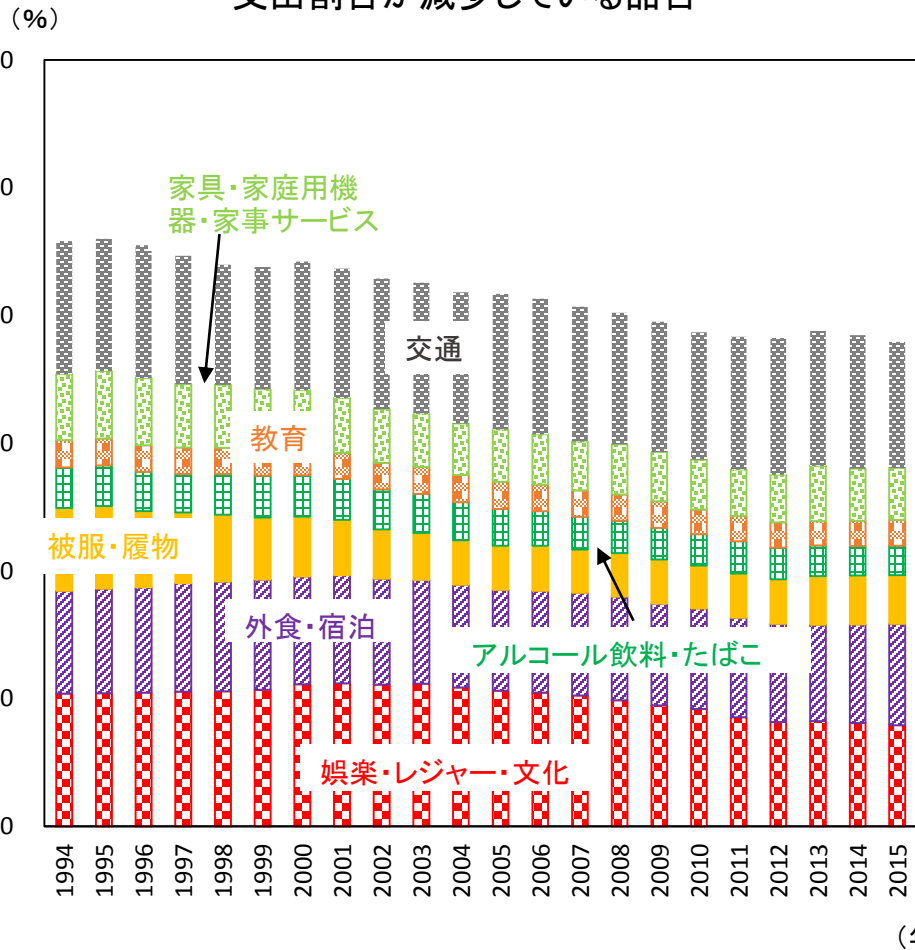
(備考) 1. 総務省「家計調査」により作成。二人以上勤労世帯。  
2. 平均貯蓄率 = 貯蓄純増 ÷ 可処分所得 × 100

(備考) 総務省「労働力調査(詳細集計)」により作成。

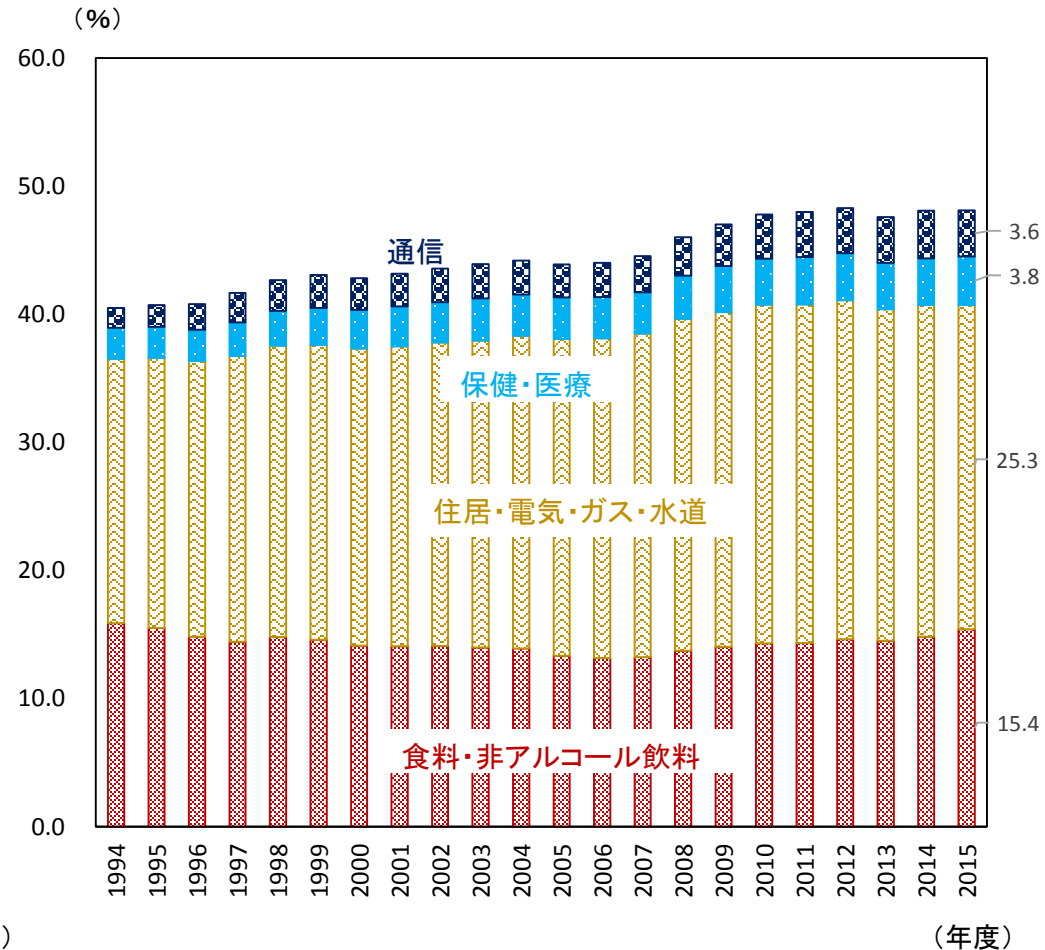
# 生活必需的消費の上昇

○ 消費に対する支出割合が増加している品目(右側)と減少している品目(左側)に分割すると、増加しているのは「生活必需」的消費、減少しているのは「嗜好」的消費であることが分かる。

支出割合が減少している品目



支出割合が増加している品目



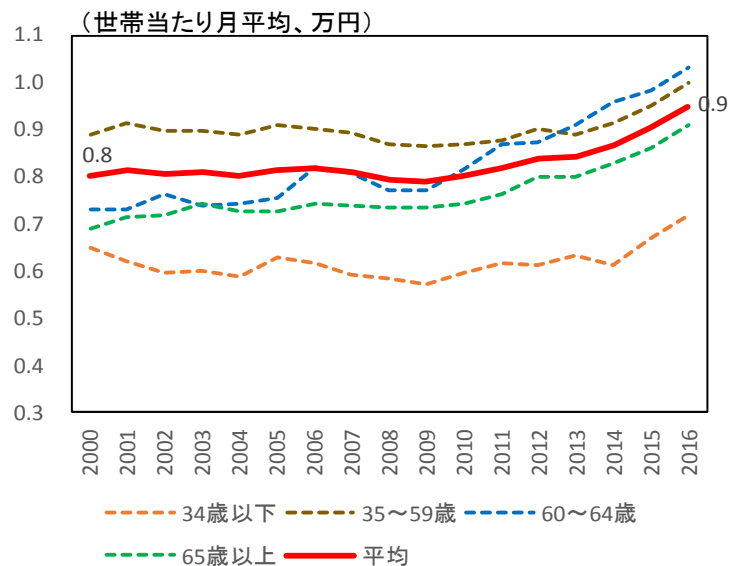
(備考) 1. 内閣府「国民経済計算」により作成。名目。図では「その他」は除いている。

2. 総務省「家計調査」では、支出弾力性(消費支出総額の変化率に対する費目支出の変化率の比)が1.00未満の費目を基礎的支出、1.00以上の費目を選択的支出と定義し、基礎的支出には、食品、家賃、光熱費、保健医療サービスなど、選択的支出には、教育費、教養娯楽用耐久財(パーソナルコンピュータなど)、月謝類などが含まれるとしている。

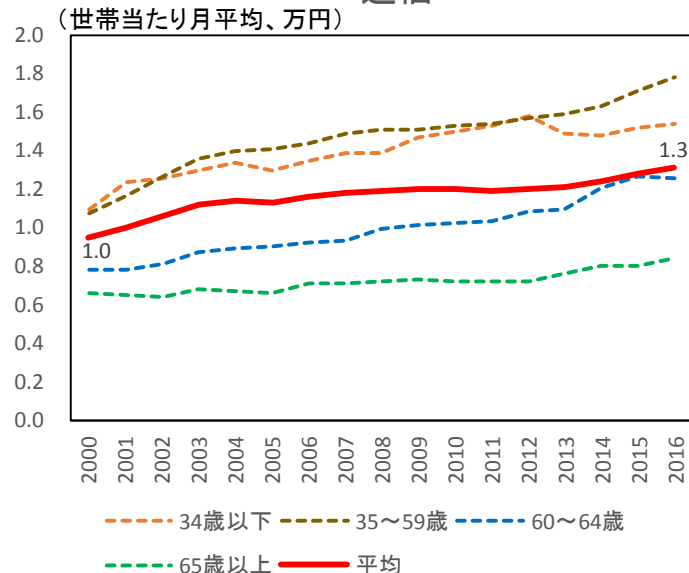
# 消費構造の変化①（増加傾向にある品目）

○近年消費が増加している品目は以下の通り。消費構造が変化しつつある状況がみてとれる。

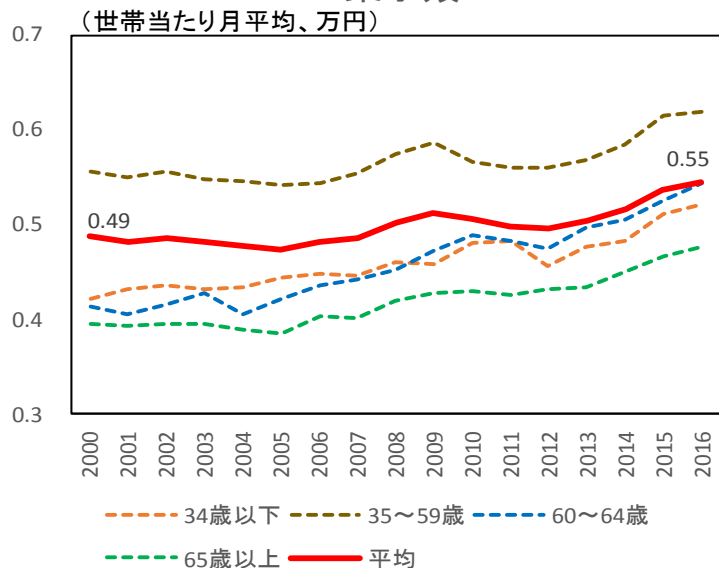
## 調理食品



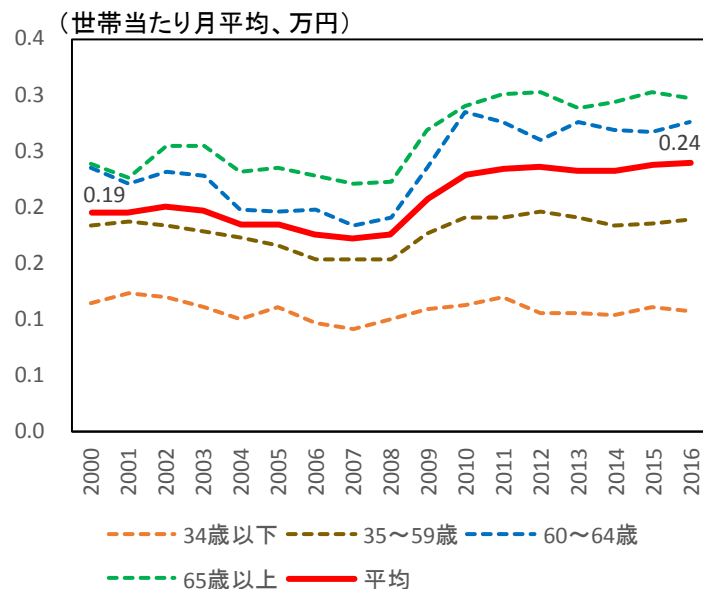
## 通信



## 菓子類



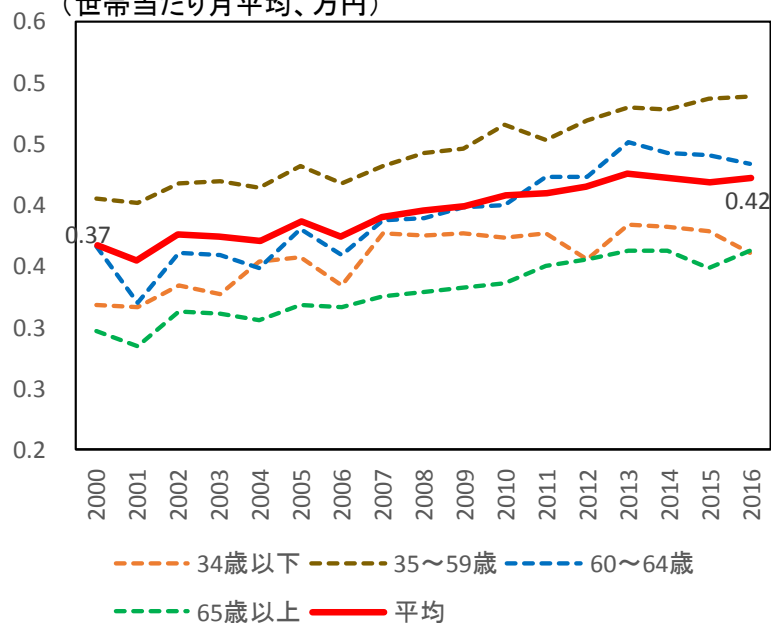
## 医薬品



(備考)総務省「家計調査」により作成。二人以上世帯。

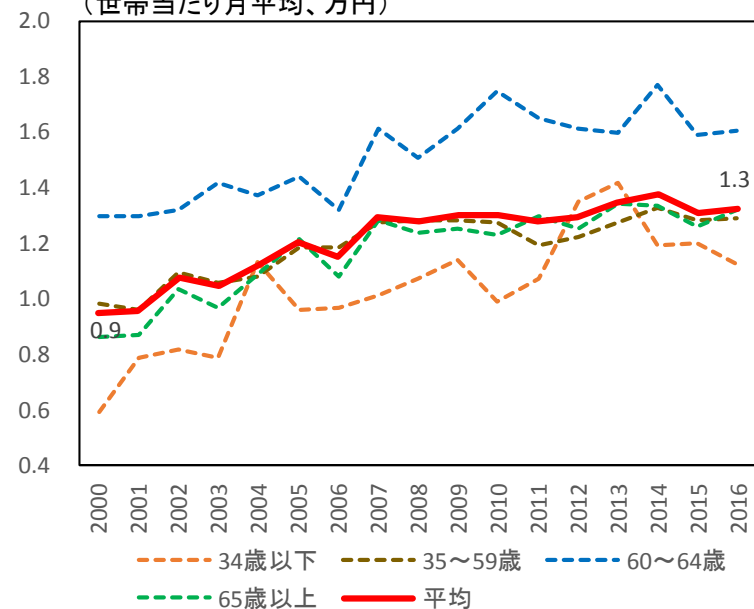
## 理美容用品(化粧品等)

(世帯当たり月平均、万円)



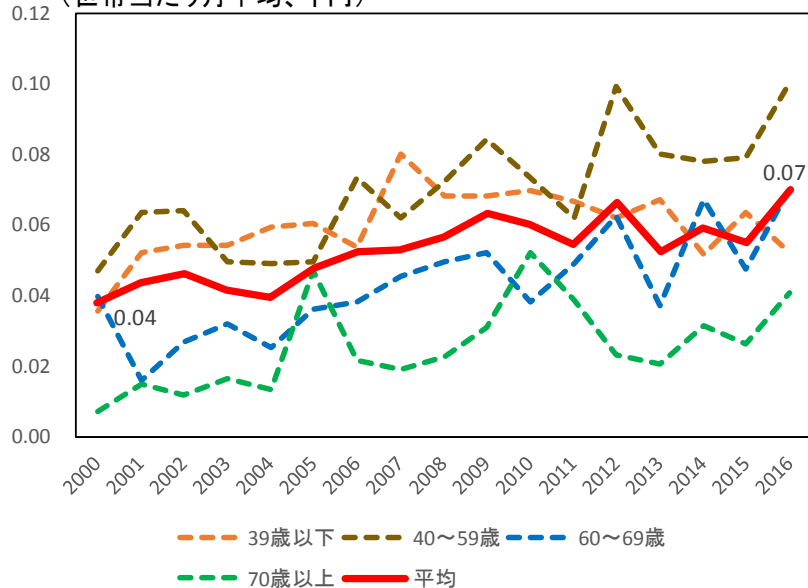
## 冠婚葬祭、保育・介護サービス等

(世帯当たり月平均、万円)



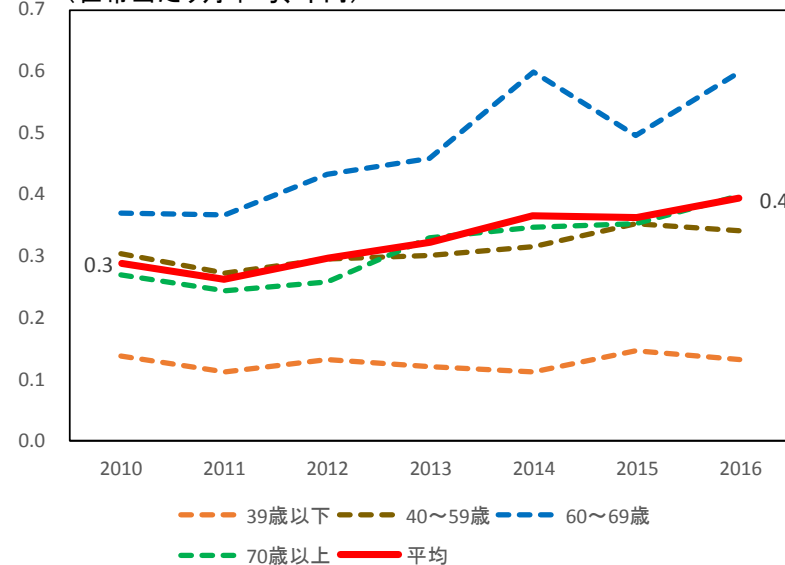
## スポーツ観覧料

(世帯当たり月平均、千円)



## スポーツクラブ使用料

(世帯当たり月平均、千円)

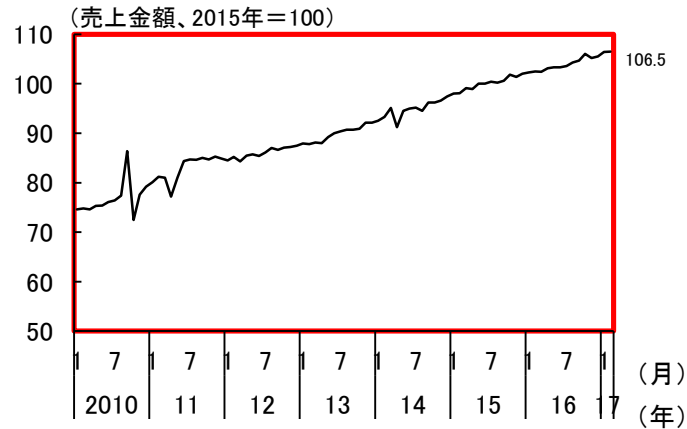


(備考)総務省「家計調査」により作成。二人以上世帯。

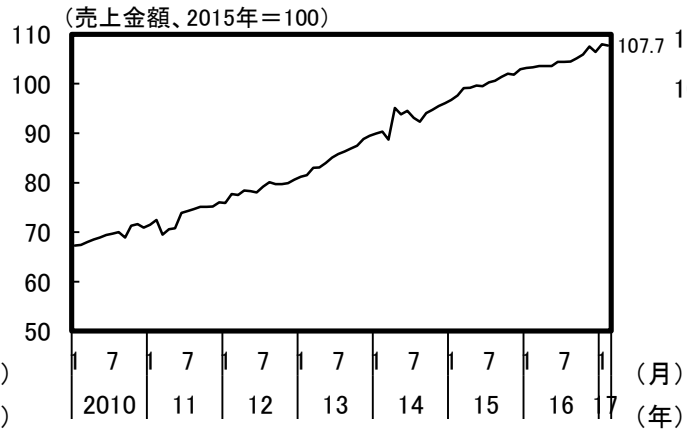
# 消費構造の変化② (増加している流通チャネル) コンビニ

○コンビニの売上金額は食品、非食品、サービスとも増加傾向。流通チャネルが変化しつつある状況がみてとれる。

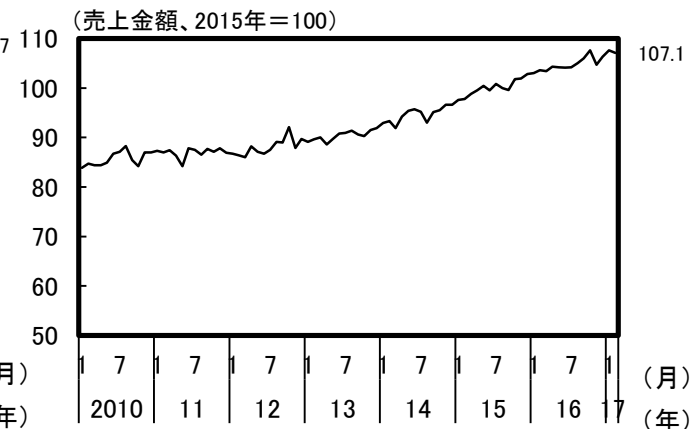
合計



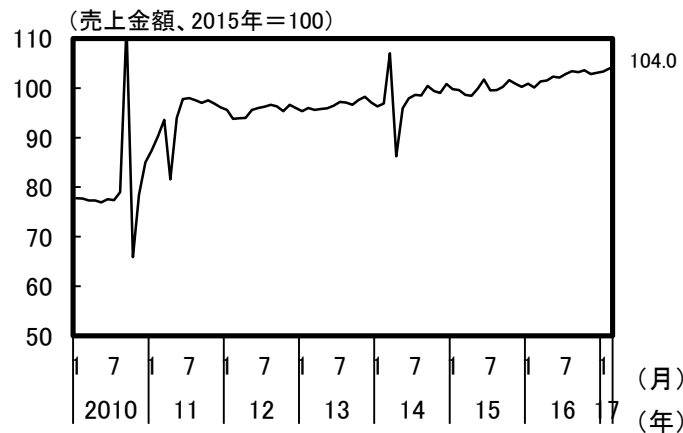
ファーストフード及び日配食品



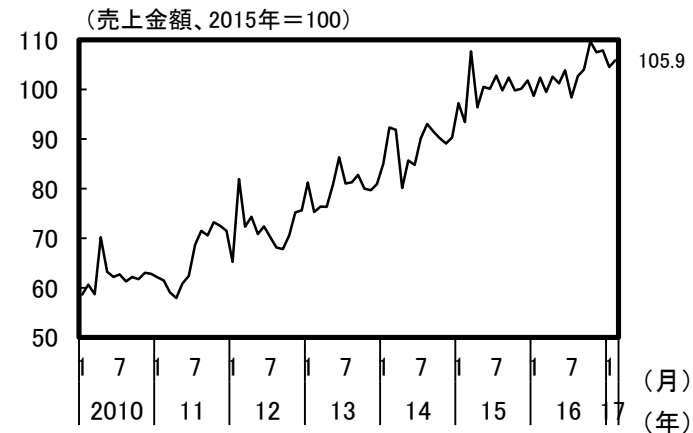
加工食品



非食品



サービス



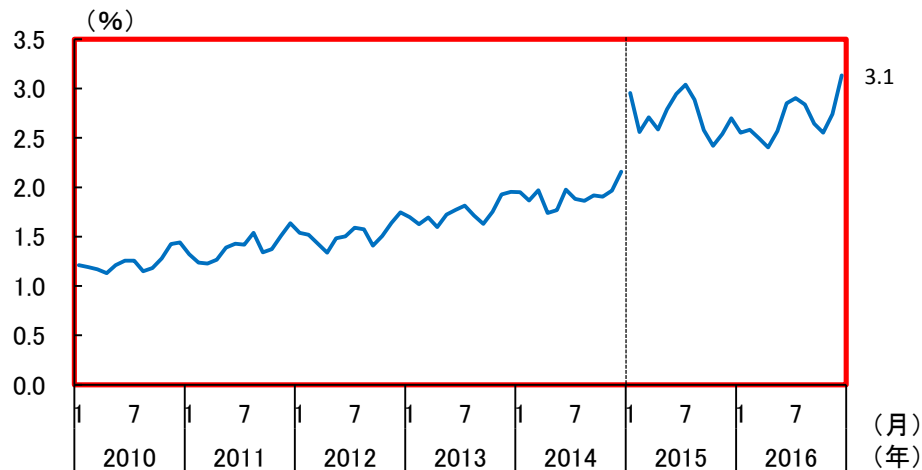
(備考) 経済産業省「商業動態統計」より作成。季節調整値。



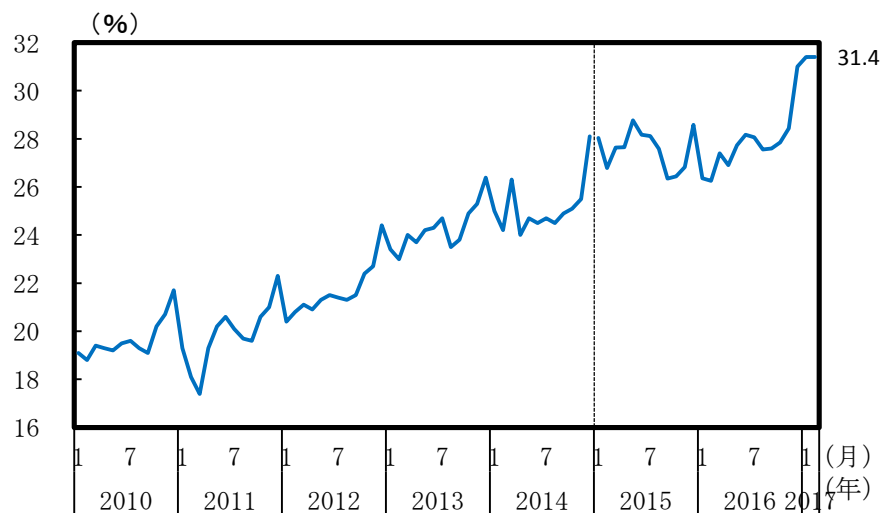
# インターネットを通じた販売

○インターネットを通じた販売は増加傾向。流通チャネルが変化しつつある状況がみてとれる。

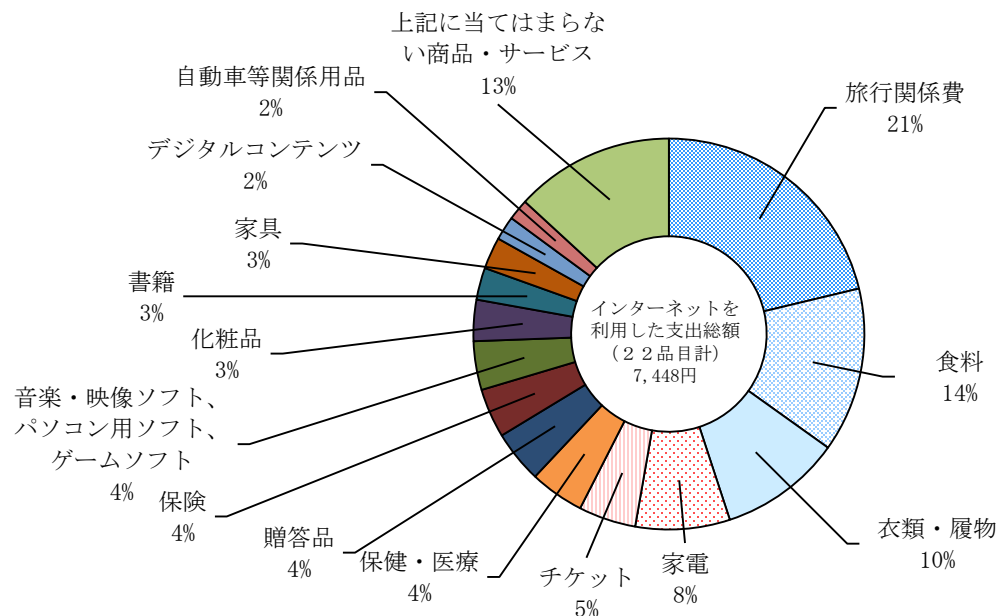
支出総額に占めるインターネットを通じた消費の割合



インターネットを通じて注文をした世帯の割合



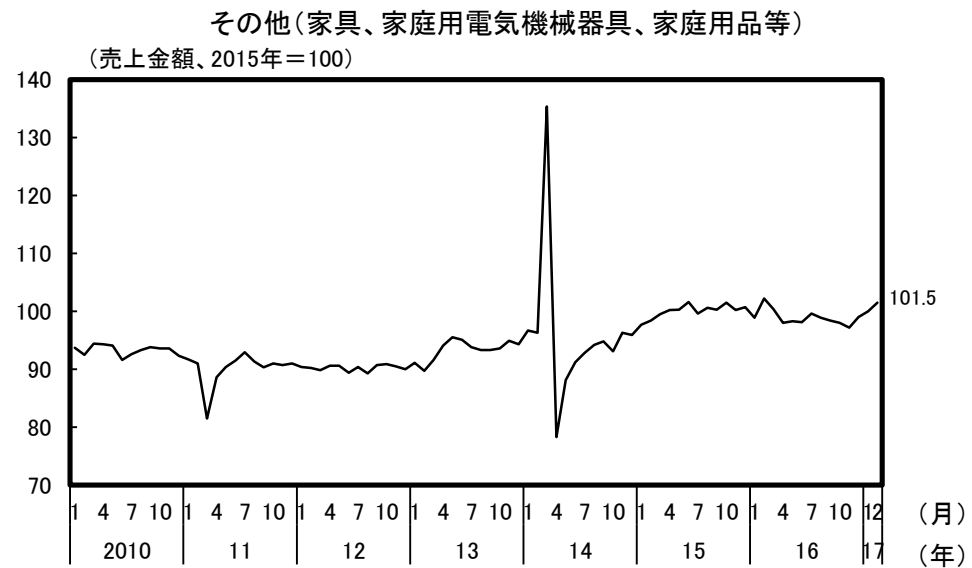
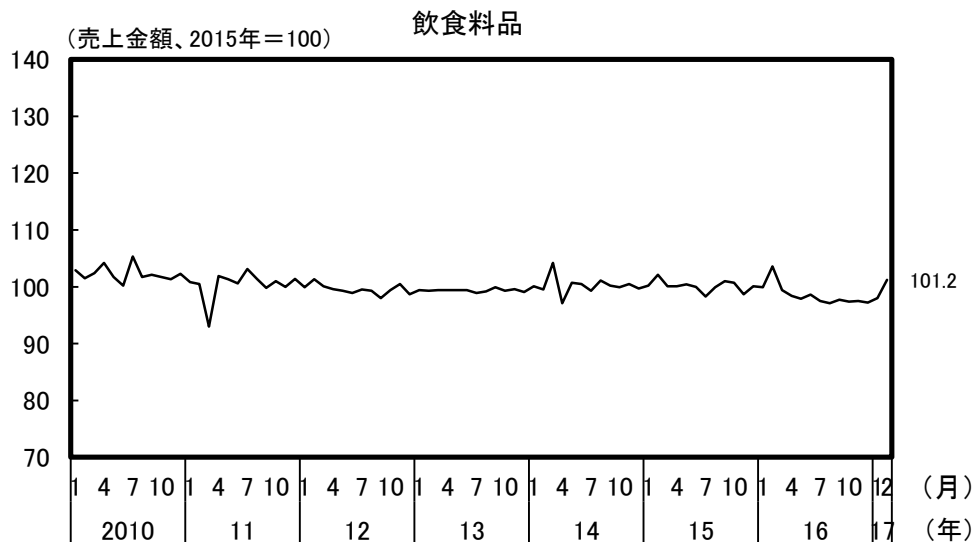
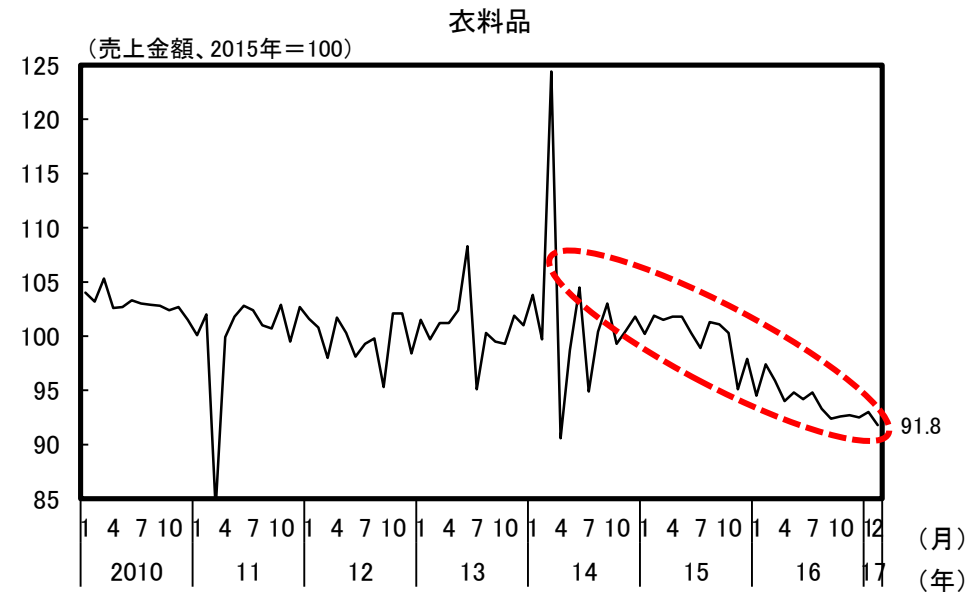
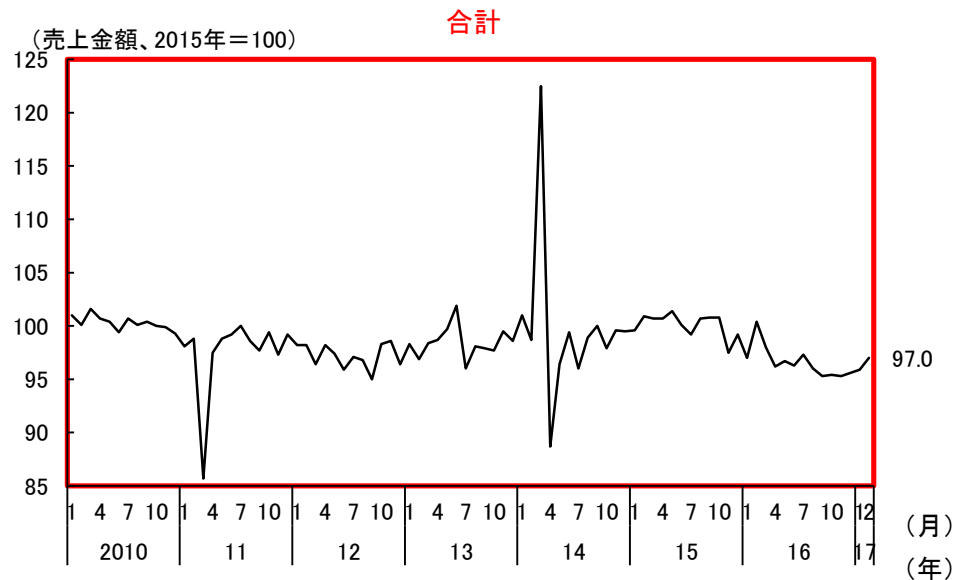
ネットショッピングの項目別支出割合 (%) - 2016年



(備考)総務省「家計消費状況調査」により作成、二人以上の世帯。左図について、2015年以降は調査方法の変更があった。

# (参考1) 百貨店

○百貨店売上は減少傾向。特に、衣料品の減少が著しい。



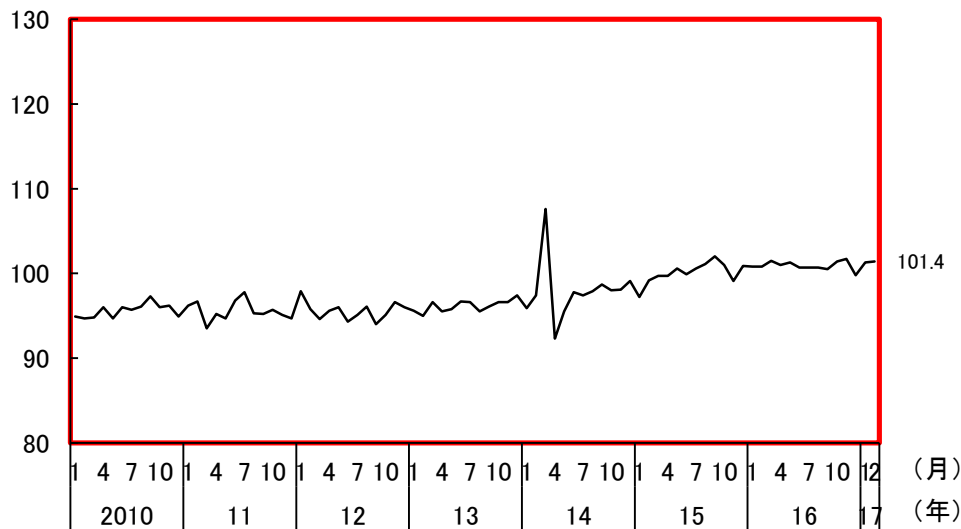
(備考) 経済産業省「商業動態統計」より作成。季節調整値。

# (参考2) スーパー

○スーパーの売上も横ばい。衣料品の減少が著しい。ただし飲食料品は増加傾向。

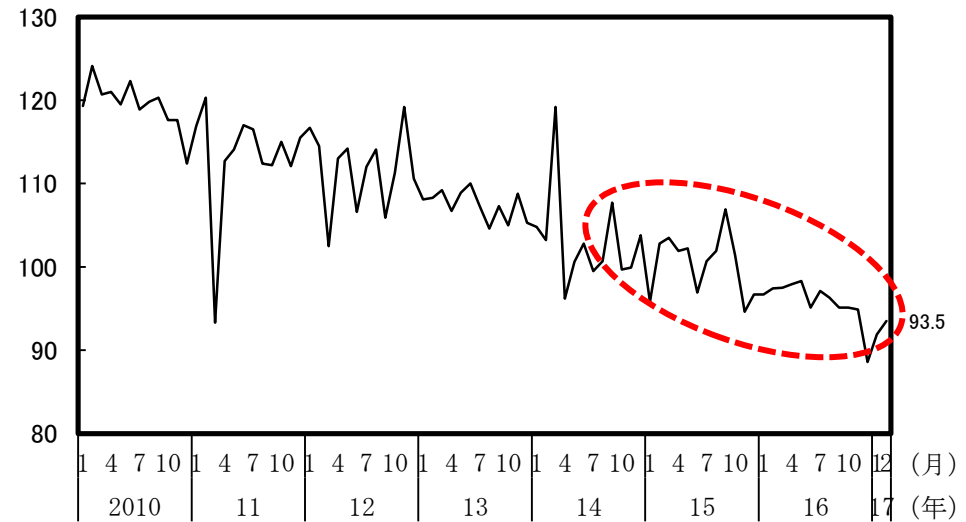
合計

(売上金額、2015年=100)



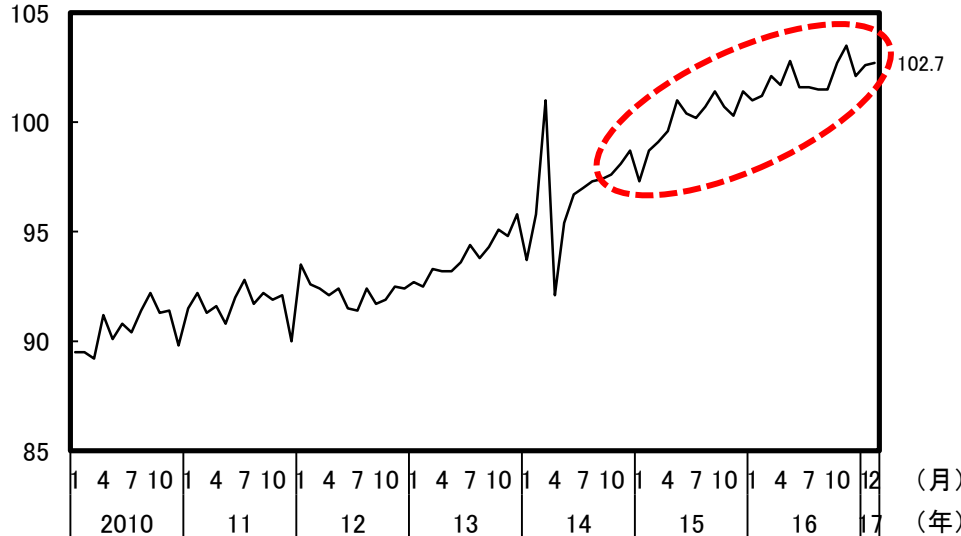
衣料品

(売上金額、2015年=100)



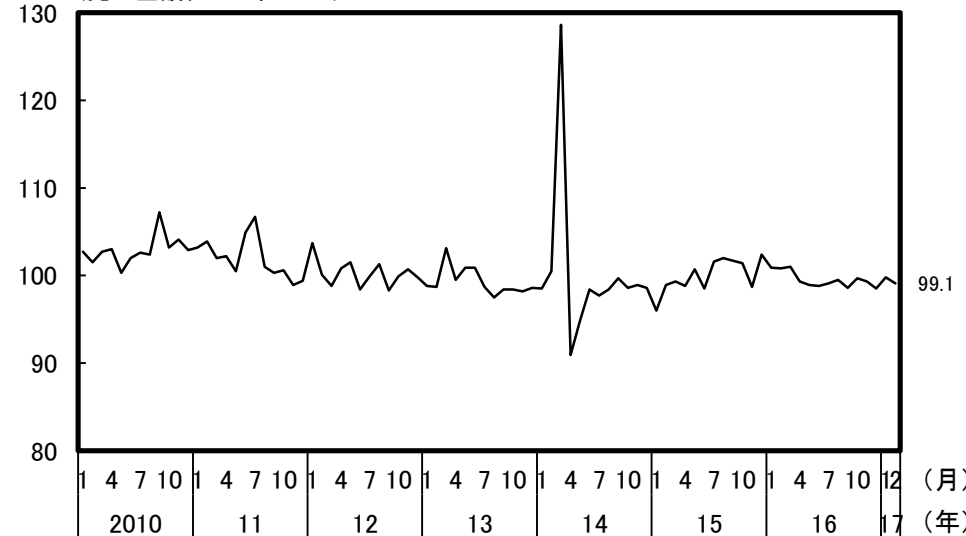
飲食料品

(売上金額、2015年=100)



その他(家具、家庭用電気機械器具、家庭用鞆品等)

(売上金額、2015年=100)



(備考)経済産業省「商業動態統計」より作成。季節調整値。